



# 三春中学校だより

第 40 号

発行日 令和 元年 12 月 6 日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

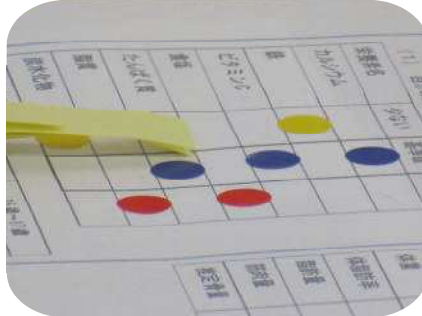
【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

## 【食育に取り組んでいます！ ～PTAの食育講演会とともに。～】

『食べることは生きること』、『よりよく食べることはよりよく生きること』につながる。先日行われたPTA教育講演会でも取り上げられた『食育』。今年度も文科省から指定をいただき取り組んでおりますことをご存じのとおりです。

3年生の『食育』の授業は、自らの『食』の実態を把握したうえで、自分自身の『食』の在り方について説明する『トリセツ』の作成を通して、自らの『今』、そして、『未来』の幸せを求めていくという学習です。

忘れてはいけないのが、昨年度の食育授業公開で、郡山女子大学の亀田先生からご指摘いただいた大切なこと、「何のための食育ですか？」の問いに対する答え「幸せになるためです。」だと思います。今、そして、将来、子どもたちが充実した食生活を送り、幸せな生活を送ることができるよう、食育に取り組んでまいります。

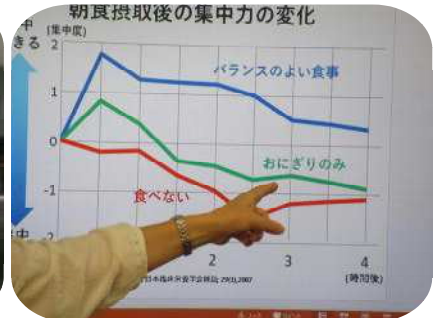


## 【共に『食育』を！ ～新地小学校『つながる食育推進事業』公開授業を参観しました。～】

11月26日(火)、福島県の北東部、宮城県との県境近くにある新地町の新地小学校で行われた『つながる食育推進事業』新地小学校公開授業を参観してまいりました。福島県での文科省からの指定はこの新地小学校とわが三春中学校の2校。それぞれが『食育』推進・普及の中心としてそれぞれの学校の取組を充実させるとともに、その取り組みをそれぞれの地域に波及させていこうというねらいのものと取組です。

公開授業は午後からのため、まず、給食の試食をさせていただきました。地場産品を多用したメニューで、ごはん、野菜さっぱりヒラメの唐揚げ、ゆかりあえ、新地野菜の味噌汁というものでした。小学校の給食なので、本校の中学生用の給食よりはカロリー的にも低い給食でしたが、新地のご飯もとてもおいしくいただけました。授業は、担任の先生と栄養教諭の先生とのT・T授業で、友達と交流しながらみそ汁のレシピを作っていくというものでした。ICT機器を活用した授業で、一人ひとりにタブレットが配付され、班内での発表はそのタブレットを用いた発表でした。授業の終末では栄養教諭の先生から、電子黒板で、「朝食摂取後の集中力の変化」というデータが提示され、バランスのよい食事は集中力を高く長く発揮させるものになるというお話で締めくくりました。

ともに、『幸せな生活』を送れるよう、『食育』に取り組んでまいります。



## 【整った教室で今日も1日が始まる！～縦横整然と並んだ机といすが待っています。～】

毎週木曜日は校長解錠・施錠の日です。先生方をはじめ教頭先生も早く帰ってもらい鋭気を養ってもらおう日と考えています。ある木曜日の放課後、校舎を閉めるため、最終確認で校舎を点検して回っていると、3階の教室から、「コトコト」という音が聞こえてきました。何の音だろうと懐中電灯で照らしてみると、主任の先生が各教室の机といすを縦横きっちりと並べているときの音でした。教室の電灯をつけ眺めてみると、縦も横も本当にきっちりと並んでいました。明日の朝はこんな整った教室で子どもたちを迎え、整った環境の中で気持ちよく子どもたちが学習し生活できるんだなあとなんだかうれしくなりました。あまり目につかない環境整備ですが、とても大切な『学びの環境づくり』だなあと、人知れず子どもたちの学びの環境づくりに取り組んでくれていた本校教職員の姿をととても心強く感じた瞬間でした。



## 【挑戦！表現！ ～三春町英語弁論大会を通して英語学習に取り組みました。～】

11月24日（日）、三春交流館まほらの小ホールにおいて、令和元年第16回三春町中学生英語弁論大会が実施され、本校よりは例年よりずっと多い1年生5名、2年生3名、3年生4名の計12名の参加者が日頃の英語学習の成果を發揮すべく熱弁を振るいました。

主催は三春町国際交流協会、後援が三春町教育委員会他でした。町長さん、議長さん、教育長さんが見守る中、われらがジミー先生も英語指導助手としてスピーチしました。参加の面々ははじめは緊張感が強く感じられましたが、弁論が始まると実に堂々と身振りを交えて英語を自国語のように流ちょうに発表していました。

日が短くなり、放課後の時間や家庭での学習時間をやりくりし、英語弁論の発表練習に時間を割いて取り組んだ発表者のみなさんは、いずれも英語への興味・関心や実力をもった子どもたちであり、それが指導の先生の目にとまっての出演となったのではないのでしょうか。

好きな英語の学習に自から進んで挑戦し、弁論大会へも果敢に挑戦する姿はととてもすばらしいものです。その挑戦がさらに一人ひとりの生徒さんの内に秘められた力を引き出し、自分自身への“自信”にもつながります。今回の挑戦はこれからの英語力向上に必ず役立つはずですよ。12人の挑戦者のみなさん、本当にすばらしかったですよ。そして、よくがんばりました。審査員のひとりダニエル先生からは、大会終了後、「みんなすばらしかった。特に3年生の弁論はととてもよかった。」という感想をいただきました。

